

東京・明治大学での事前学習

①創始者を知ろう（講義形式勉強会）・グループ相談

6月17日（金）19:00～21:00

創始者のふるさと活動隊員19名が決定し、初めて全員が顔を合わせる機会となりました。初回の事前学習は創始者である岸本辰雄先生、宮城浩蔵先生、矢代操先生について学びます。大学の校史に関する研究、資料の収集や保存・管理を行っている、大学史資料センターの村松さんに講師としてお越しいただき、創始者たちの生い立ちから上京・留学・明治法律学校の創立までを、時代背景とともに細かく学習しました。19時という遅い時間からのスタートであったにもかかわらず、およそ90分間の講義に全員が最後まで集中して耳を傾けました。終了後のアンケートでは、「全然知らなかったことばかりで、もっと勉強しなければと思った」「創始者が苦勞して学んで、高い志を持って大学を設立したことが分かった」「創始者の出身地に対して、親しみを持つ事ができた」などの感想が多くみられ、今後の活動のための有意義な時間となりました。

その後のグループ相談では、次回事前学習で行う発表に向け、グループ毎にどんな発表にするのか・何を調べてくるのか等の話し合いを行いました。



②ファシリテーション研修・創始者の出身地はどんなところか調べてみよう（発表）・地域レクチャー

7月 8日（金）19:00～21:30

第二回事前学習は、講師に専門職大学院ガバナンス研究科の源先生にお越しいただき、現地に行った際に必要になるファシリテーションスキルを学びました。地域の人々との対話や意見交換を効果的に進めるための三つの技法について、実際にポストイットを使用しながらの演習をとおして学びました。1時間の短い研修でしたが、現地で必ず必要になる能力であることが分かり、皆が真剣に取り組みました。



次に「創始者の出身地はどんなところか調べてみよう（発表）」に移り、鳥取・天童・鯖江の自治体職員の方々の前での発表を行いました。まだ自分がどの場所に派遣されるか分からない状況であるため、3地域を等しく調べての発表です。前回事前学習会の際に発表されたグループのメンバーとは、学年も通学する校舎も違う中で連絡を取り合い、パワーポイントを作りあげて今回を迎えました。短い期間での調査でしたが、3グループそれぞれがインターネットや本で調査した結果を発表しました。各自治体の方々には熱心に耳を傾けていただき、最後に感想を頂戴しました。



発表終了後は、いよいよ現地体験の行先が発表され、部屋に分かれての地域レクチャーです。各自治体職員の方々に、パンフレットやデータを使用しながらの詳細な地域の説明や現地での大まかなスケジュール、そしてふるさと活動隊へ期待することを説明いただきました。これから実際に現地へ行くまでに、活動隊員たちは自分たちに何ができるかを考え、各自・各グループで事前調査を行います。



③講義「地域について考えるヒント」・グループワーク

7月30日(土) 15:00~17:00

最後の事前学習は、講師に政治経済学部の木寺先生を迎え、これから実際に現地へ向かう活動隊に向けて「地域について考えるヒント」をテーマに講義をしていただきました。地域の「魅力や特徴」の活かし方を考える際どのような要素にポイントを置くべきかなど、社会デザインの構造を学びました。また、学生が地域活動を行う際にやっと思い間違いちな失敗“学生地域活動あるある”もお話いただき、短い現地体験期間をいかに効率的に過ごすかを考えるきっかけとなりました。



講義のあとはグループワークを行いました。現地に向かう前に、全員で大学に集まるのは最後となります。与えられた課題に対してどのように取り組むのか、コンセプト、現地に向かう前に何をやるべきなのか、現在不安な事などをグループ内で相談しました。ファシリテーション研修で学んだ技法で意見を出し合うグループ、現地体験まで毎週一回集まることを決めたグループ、事前に調べる事を分担するグループと、それぞれ時間の使い方は様々ですが、集中して相談する姿から意気込みが伝わってきました。

